

ドラッカー——人、思想、実践

三浦一郎 (ドラッカー学会代表、立命館大学経営学部教授)

阪井和男 (ドラッカー学会理事、明治大学法学部教授)

井坂康志 (ドラッカー学会理事、ものつくり大学特別客員教授)

I ドラッカーとは誰だったのか

1) ドラッカーとは何者か

—現代社会最高の哲人、マネジメントの父

—社会、組織、人間

—ものの考え方 (フレームワーク)、方法 (スキル)、言葉 (箴言)

—世界観、方法論、問題意識

2) ドラッカーの「関心領域」

—社会的存在としての人間、社会として機能する社会

—技術、日本画、産業、資源、環境、少子高齢化、政治

—経済、財政、金融、税制、通貨、年金

—マネジメント、労働、外国人労働者、IT…

3) ドラッカーの「方法論」

—今ここを信頼する。手持ちの道具で理想を求めて、ささやかに進める。歴史と
ケース

—コンサルティング

—真理は掴めるか、例えば万病の薬、基本と原則、企業経営、組織構造

—万人の帝王学、真摯さ、所 (強み・方法・価値)、成果原則 (貢献・集中・基準)

II マネジメント

4) マネジメントのポイント

—マネジメントのフレーム

—いくつかの基本形

・見る (命あるものとして全体を見る)

・聞く (視点をずらす)

・分かったものを使う (すでに起こった未来、予期せぬもの)

・基本と原則を補助線として使う (経営の目的、組織構造)

・欠けたものを探す (未知なるものの体系化)

・自らを陳腐化させる (エントロピーの法則)

・仕掛けを作る (成功会議、ベストプラクティス、フィードバック)

・モダンの手法を使う (時間管理)

・万能薬を怪しむ (真理の危険)

・あらゆる事態を想定する (アクションプラン)

・異論なくして決定せず (問題の理解)

・小さく始める (モニタリング)

・エビデンスを至上としない (手遅れのリスク)

5) マネジメントの作法 (代表的なもの)

—フィードバック分析

—マーケティング、イノベーション、生産性、すでに起こった未来

—何をもって憶えられたいか

—セルフマネジメント

—自分を使って何を成し遂げうるか

—二つ以上の人生を同時に生きる

—時間からスタート

—貢献に焦点

—ブライアン看護師のルール

—自分の価値観、仕事の価値観

—誰も聞いていない会議は開かない

—誰も読まない資料はつくらせない

以上